

# グルマリー・チッドヴィラーサーナンダについての熟考

## 最善を尽くすよう歓迎される

トレイ・ファーガソン

2008 年に私が初めてシッダ・ヨーガの教えを実践し始めた頃、SYDA ファウンダーションのビデオ——グルマリーのチャンティングや新年のメッセージを伝えるもの、バーバの講話など——は、私がシッダ・ヨーガの道と非常に奥深い形でつながるのに役立ちました。テキサスのシッダ・ヨーガ瞑想センターでそれらを見ることで、私はグルの**ダルシャン**を体験できたのです。

2年前、私はシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでビデオ編集者として**セーヴァー**をささげるスタッフの一員となりました。そのセーヴァーは私にとって新しいものであり、私は、私より以前からいて道を切り開いてきたマルチメディア部門のすべての**セーヴァイト**への深い感謝を感じました。彼らの技術と SYDA ファウンダーションの任務への献身は、私を大いに刺激しました。

そうした往年のセーヴァイトの多くが、2014 年に、グルマリーの誕生日を祝う 2014 年のバースデー・ブリス(誕生日の至福)のビデオ制作部門でセーヴァーをささげるために、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムに戻って来ました。彼らは何年も一緒に働いていませんでしたが、その優れたプロフェッショナルたちは、すぐにチームとしてうまく団結して機能し始めました。彼らはまた、私たち——新しいスタッフや訪問セーヴァイト——も完全に含めてくれました。

ある夜、私たちはアヌグラハのビルにあるガネーシュ神の像のそばでのビデオ撮影を準備していました。私たちがすべての機材を持ってロビーを通り抜けようとした時、グルマリーに会いました。彼女は、再招集されたセーヴァイトのチームが再び一緒に働いているのを見て喜び、彼らが行き組んだ特別なプロジェクトや、彼らが担った特別な立場など、一人一人の SYDA ファウンダーションへの貢献について話しました。彼女は、彼らの長期にわたる専心と献身に対して

多大な感謝を表しました。グルマールはカメラマンに、「古いチーム」の集合写真を撮るよう依頼しました。彼らの長年にわたるビデオ制作における努力は、私や数え切れない他の人々に、ダルシャンを体験し、教えを学習するための類いまれな方法を提供してきました。そして私は、彼らがそろってグルマールから謝辞を受ける様子を見て感動しました。

数枚の写真が撮られた後、グルマールはグループの他の人たちの方を向いてほほ笑みました。「そして今度は…」と、彼女は言いました。「…新しいセーヴァイトたち！」 私たちはもう1枚の写真のためにグループに加わるよう招かれました。私は歓迎されている深い感覚を持ちました——グルマールは、彼らがささげてきたセーヴァーを通して、私の**サーダナー**にあれほど直接的な影響を与えてくれた人々のそのチームに、私を歓迎してくれていると感じたのです。グループに加わり、私はシッダ・ヨーガのセーヴァーの伝統に参加していることを実感しました。その伝統とは、技術と体験がセーヴァイトの一つの世代から次へと伝承され、セーヴァーの偉大なる遺産を作り出すことなのです。

グルマールは、私をシッダ・ヨーガの遺産への参加者として歓迎してくれました。そしてそれは、私により一層自分の最善を尽くそうという気を起こさせました。

程なく、経験豊かなチームは自分たちの家に戻って行きました。新しいセーヴァイトが一年を通して到着する中で、私は彼らをアーシュラムや彼らの役割に歓迎することに特に気を配りました。ささいなことが違いをもたらしました。それは、物品を保管する場所や仕事の流れを彼らが確実に知っているようにすることが、彼らが役割と責任を自分のものとするのを本当に助けたということです。私は彼らが自信を得ていくのが分かり、その自信は彼らが最善を尽くすのを助けました。

2014 年のバースデー・ブリスの月が終わって間もなく、私はファミリー・**サツァング**にビデオチームとしてセーヴァーをささげていました。グルマールは、子どもたちをシッダ・ヨーガの遺産

の担い手として認めました。彼女がシッダ・ヨーガの道のウェブサイト在最近掲載された幾つかのビデオについて言及した時、あるスタッフメンバーが立ち上がって、一人の訪問セーヴァイトと私をファミリーたちに紹介し、それらのビデオを制作する上での私たちの役割を説明しました。グルマーイが子どもたちに、私たちが貢献したことを聞いて、セーヴァーをささげる気にさせられたかどうかを尋ねると、拍手喝采が湧き起こりました。「はい！」

その瞬間を思い出し、いかに早く物事が一回りしたか気づき、私は感動しています。ほんの数週間前、グルマーイは私に、一人一人のセーヴァーがいかに他者を鼓舞し得るかを認識させてくれました。そして今度は、彼女が私や数え切れない他の人々に自分たちの技術や知識を伝える責任を持つことを教えたことで、新しい世代のメンバーが、奉仕に自分たちの最善をささげることへの熱意を表していたのです。

